

1920-30 年代初頭の海外ジードルンク計画に込められた理想の都市像 雑誌『国際建築』に紹介された記事・論考の分析

The ideal city image included among an overseas Siedlung in 1920's and the beginning in 1930's
An analysis of articles published in a magazine "international architecture"

○前田閑彩¹, 田所辰之助²

*Shizusa Maeda¹, Shinnosuke Tadokoro²

Referring to the magazine "Kokusai-Kenchiku (International Architecture)" published on that time in Japan, this paper reads the urban philosophy, time background in German and other foreign countries in later 1920s and early 1930s, and ideal social, urban image which was put in Siedlung plan, and analyzes and clarifies how Siedlung plan has been introduced to Japan, how it was reflected to Japan's urban formation, and how it has been planned based on time background, theory, thought, and urban plan.

1. 研究目的

1920 年代後半から 1930 年代前半のドイツやその他海外の都市理念や時代背景, ジードルンク計画に込められた理想の社会・都市像を読み取り, それらが日本にどのように紹介されてきて, 影響を与え, どのように日本の都市形成に反映されたのか, その際に, ドイツや他国の時代背景や理論, 思想や都市計画なども踏まえて計画されているのかについて, 明らかにする.

2. 研究方法

海外のジードルンク計画が日本にどのように伝えられたのかについて, 日本の当時の雑誌を一次資料として, ジードルンクや集合住宅, その他関連する記事を見つけ出して, 年表にする. その年表を用いて, それらの記事がどのような切り口で書かれているのかについて, テーマを決めて分類し, 分析を行っていく.

3. 本論

3-1. 『国際建築』

当時の日本にどのように海外のジードルンクが紹介されたのかについて調査するには, 実際に紹介している文献を見つけ, どのように書かれているのかを読むことがより正確に調べることができると考えられる. そのため当時の日本で, 建築や住宅を扱い, 特に海外の建築や建築に関する技術, 新しい建築物を紹介していた雑誌を 1 次資料として用いて, 検討, 分析を行った. 『国際建築 復刻版』の第 6 巻から第 21 巻 (1928 - 1935) までを用いて, ジードルンクや集合住宅, その他関連する記事を年表にまとめ, それらの記事がどのような視点で記されているのか, についてキーワードを決めて分析を行った.

対象とした『国際建築 復刻版』は, 大正 14 年に国

際建築協会が創刊した『国際建築時論』の後継誌である『国際建築』の戦前版である 182 号分を全 3 回で復刻したものであり, 蔵田周忠や岸田日出刀など当時の有名建築家の寄稿による, 海外のモダニズム建築等の日本建築界における克明な記録である.

3-2. 『国際建築』に書かれたジードルンク

ジードルンクや集合住宅, アパートメント等について取り上げられている記事を見つけだして, 読み込み, 年表の作成を行った. その際に分析の手掛かりとなるように, どのような視点で書かれているのかについて, 都市計画, 田園都市などに加えて, 時代背景, 建築思想の 4 項目に分類した, 今回の調査, 分析において, ジードルンク, 集合住宅, またそれらに関連する記事は, 海外について 77 件あり, その他に, 写真や図面のみの紹介記事が, 海外について 73 件, 国内について 7 件見つかった. 国際建築は, 国外の建築について主に取り上げて記事にしているが, 当時の日本の最新建築については時折取り上げられるが, 海外建築との比較として示されることがほとんどであった.

3-3. 時代背景, 建築思想について

1928 年から 1935 年までにどのようにジードルンク等が紹介されているのかについて, 3-2. で示した 4 項目から傾向を読んでいく. この項では時代背景, 建築思想の 2 項目に注目して分析した.

時代背景についての視点をもった記事は 32 件あり, ジードルンクについての記事の半分には満たないが, 文献を読み始める前までは, 当時の雑誌でのジードルンクの紹介のされ方は, 「ダマーシュトック・ジードルンクの記録」のようなものであると考えていたため, 当初の想定を超えて, 多くの記事が設計当時の背景を

示して、日本に伝えていたことが分かる。また、その中でも蔵田周忠によって書かれた記事はほとんどが時代背景を加味して書かれていることがわかる。このことから、蔵田によって書かれた記事が『国際建築』の中には多いことも影響しているが、蔵田の記事は、日本に技術やデザインとして海外の事例を紹介しているのではなく、これに至る経緯や背景をも日本に伝えていたと言える。

建築思想に関して示されている記事は、43 件で約半分の記事は思想について記されていることになる。時代背景の時と同様に、蔵田の手掛けた記事のほとんどが思想についても記されている。

3-4. 都市計画や田園都市について

3-3. と同様に、都市計画、田園都市について書かれている記事について分析した。

都市計画について書かれている記事は 31 件で、それらのほとんどが都市計画法について触れているものであり、実際のジードルンクの計画が都市とどのように関係を持っているのか、都市のなかでジードルンクがどのような役割を果たすのか、について示されているものは見受けられなかった。

田園都市について書かれている記事は 9 件で、田園都市の理念や計画を参考にジードルンクの計画が行われているとされているのにも関わらず、非常に少ないことから、日本へ紹介される際に何らかの理由で省略されてしまったのではないかと推測できる。

時代背景、建築思想、都市計画、田園都市についてすべて示されている記事の中で、ブルーノ・タウトによって書かれた記事には、「ジードルンクとは、単なる家の集まりでもなければ、都市の或一部分を指すものでもない。「ジードルンク」とは一つの経済単位であ

る。」「^[2]と説明していることから読み取れるが、タウトの理想とする都市像を実現するべくして建設されてきたジードルンクは、単なる建築技術ではなく、ただの新しい住宅の設計手法でもなく、1 つの都市を形成することであり、そのようにジードルンクを捉えるようにと日本へ伝えていたと言える。

3-5. 結論

日本へ紹介された海外のジードルンクは、蔵田周忠ら当時の建築家によって書かれた記事が多く、それらの記事では建設された国の当時の時代背景や建築家や都市計画家の建築思想については示されているものが多いことから、ジードルンクを最先端の技術として形やデザインだけを取り入れようと紹介していたわけではないことが読み取れた。また、都市計画や田園都市については、ジードルンクと関連して示されているものは少なく、特に都市計画については、都市の中でのあり方や都市にどのようにアプローチしていくか、といった記事ではなく、行政の都市計画法に則った内容のものがほとんどであったため、ジードルンクの計画がどのように都市形成に影響を与えてきたのか、都市に対してどのように計画されたのかについては、『国際建築』からは、日本へ紹介されていないに等しい、という結論となった。

4. 参考文献

- [1] 内田青蔵監修:『国際建築 復刻版』, Vol.6-31, 2010,
- [2] ブルーノ・タウト:「日本へのジードルンク」, 『国際建築』復刻版, Vol.19, No.9, pp.307-310, 2010
- [3] マンフレッド・シュパイデル:『ブルーノ・タウト 1880-1938』, トレヴィル, 1994
- [4] 津田辰治:「タウトのベルリンのジードルンク見聞録」, 『SD:Space design』, Vol.7812, No.171, 1978

表 1 『国際建築 復刻版』にてジードルンクについての記事の年表

巻数	頁数	ページ番号	タイトル	著者	時代背景	建築思想	都市計画	田園都市
第7巻(1928) 7月-12月	第9号	121-128	田園住宅地の開発について	一森 敏				
	第12号	488-490	国際建築	蔵田 周忠				
第9巻(1929) 1月-6月	第1号	32-36	国際建築	蔵田 周忠				
	第3号	153-155	国際建築	蔵田 周忠				
第10巻(1930) 1月-6月	第1号	41-45	オランダの建築	岸田 自由				
		49-52	独逸の建築	大内 清一郎				
		53-66	ドットツェルンの作品	蔵田 周忠				
		67-70	第二回国際建築会議論議	川喜田 棟七郎				
	第2号	136-144	第二回国際建築会議論議	川喜田 棟七郎				
第11巻(1930) 7月-12月	第5号	424-425	王立農小舎住宅	川喜田 棟七郎				
		459-459	ウィット・カシンの邸宅	川喜田 棟七郎				
	第9号	221-225	住宅問題論議	牛村 康				
		226-229	欧州新築ジードルンク見聞	山田 守				
		230-244	フランクフルトの集合住宅	川喜田 棟七郎				
第12巻(1931) 1月-6月	第10号	245-250	国際建築 [13]	蔵田 周忠				
	第11号	313-318	国際建築 [14]	蔵田 周忠				
第13巻(1931) 7月-12月	第2号	196-191	ビス・エス・エス エルに於ける住宅問題論議	岡部 周忠				
		200-208	ルツパハルト及アンカー事務所の住宅	蔵田 周忠				
		275-284	ルツパハルト及アンカー事務所の住宅	蔵田 周忠				
	第4号	347-356	アドルフ・ロース	蔵田 周忠				
		364-366	アパートメントの室内設備と敷字	樋口克平				
第14巻(1932) 1月-6月	第1号	385-388	「アヒンツ」の室内設備と敷字	蔵田 周忠				
		440-454	交通問題から [2]	アーン・シムロオ				
		446-454	現代の都市	ル・コルビュジエ				
		446-454	現代の都市	秋元 博明				
	第7号	41-44	1931年建築博覧会	蔵田 周忠				
第15巻(1933) 7月-12月	第7号	41-44	1931年建築博覧会	蔵田 周忠				
		45-47	「ドイツ建築」一帯	蔵田 周忠				
	第9号	225	雑誌	蔵田 周忠				
	第10号	279-289	「ゴッソー」ヘーリング	蔵田 周忠				
		308-309	同人雑誌	蔵田 周忠				
第16巻(1933) 1月-6月	第11号	353-358	ヘニンクス見聞録のジードルンクに就て	蔵田 周忠				
	第12号	402-408	「アヒンツ」の室内設備と敷字	蔵田 周忠				
第16巻(1933) 1月-6月	第4号	385-394	建築問題としての住宅	立立 一郎				
	第1号	31-34	1932-1933	年簿				
	56-59	『建築様式論』解題 [3]	蔵田 周忠					
第17巻(1933) 7月-12月	第7号	23-29	MOUSSEY HALLのこと	蔵田 周忠				
		30-37	成長する家 [2]	蔵田 周忠				
		127-136	成長する家 [3]	牧野 正巳				
		400-407	"RATIONELLE BEBAUUNG"を以て、柏林工科大学に於ける	ブルーノ・タウト				
		481-483	住宅建築に住宅問題に関する演習に及ぶ	秋元 博明				
第18巻(1934) 1月-6月	第12号	461-463	1933年の回顧	赤井 健				
		464-476	「建築」の法則的建築小史 [4]	山田 守				
第19巻(1934) 7月-12月	第6号	440-456	住宅設計論	山田 守				
	第9号	307-310	日本へのジードルンク	ブルーノ・タウト				
第20巻(1935) 1月-6月	第12号	479-482	住宅建築の発展	上野 伊三郎				
		479-482	住宅建築の発展	蔵田 周忠				
		479-482	住宅建築の発展	蔵田 周忠				
		479-482	住宅建築の発展	蔵田 周忠				
		479-482	住宅建築の発展	蔵田 周忠				
第21巻(1935) 7月-12月	第4号	403-404	ル・コルビュジエ「第二作品」を見る	蔵田 周忠				
	第11号	441-448	「都市計画」の問題	蔵田 周忠				